

調査範囲は、岩崎橋～浅間橋 右岸はキンランを移植した閉鎖区域で、セミ調査は行っていません。「玉川上水歴史環境保全地域（牟礼橋～岩崎橋 両岸 と 岩崎橋～浅間橋 左岸）」でセミ調査を行っています。

## セミの抜け殻調査報告書2017

■部分を入力 ■ニイニイゼミのみ♀雄別は不要(任意で入力であります)

■ブルダウムから選択

■部分は自動入力(計算)されますので入力しないでください。

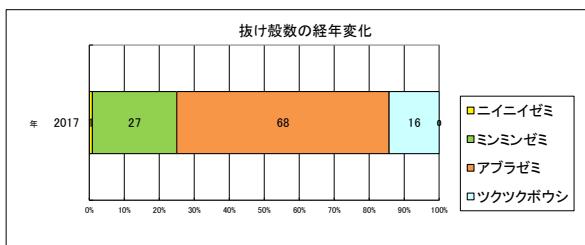
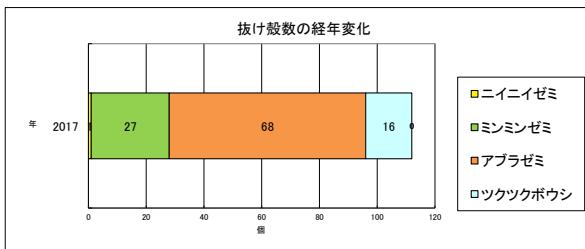
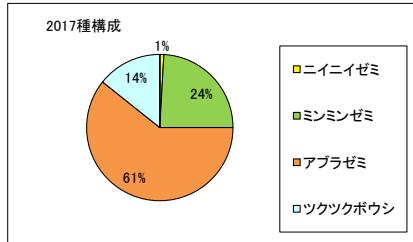
列や行は削除はしないでください。

年度	2017
都道府県名	東京都
調査地名	杉並区久我山
サイト名	玉川上水歴史環境保全地域 玉川上水緑道
周辺の環境	平地
調査場所の様子	自然公園・保存緑地
調査場所の地面	その他( )
主担当者	大塚恵子
再検者	

調査地参考情報	
声のみを聞いたセミ	クマゼミ ヒグラシ
調査地の主な樹木	サクラ ヒノキ クスギ ケヤキ コナラ
調査地関連HP	
調査参加者数	大人 8名

種	♂♀	7/31	8/14	8/28	計
ニイニイゼミ	不明	1	0	0	1
ニイニイゼミ	♂	0	0	0	0
ニイニイゼミ	♀	0	0	0	0
ニイニイゼミ	計	1	0	0	1
ミンミンゼミ	不明	0	0	0	0
ミンミンゼミ	♂	4	4	3	11
ミンミンゼミ	♀	5	2	3	16
ミンミンゼミ	計	9	6	12	27
アブラゼミ	不明	0	0	0	0
アブラゼミ	♂	11	14	9	34
アブラゼミ	♀	7	17	10	34
アブラゼミ	計	18	31	19	68
ツクツクボウシ	不明	0	0	0	0
ツクツクボウシ	♂	0	2	6	8
ツクツクボウシ	♀	0	0	8	8
ツクツクボウシ	計	0	2	14	16
ヒグラシ	不明	0	0	0	0
ヒグラシ	♂	0	0	0	0
ヒグラシ	♀	0	0	0	0
ヒグラシ	計	0	0	0	0
クマゼミ	不明	0	0	0	0
クマゼミ	♂	0	0	0	0
クマゼミ	♀	0	0	0	0
クマゼミ	計	0	0	0	0
(自由入力)	不明	0	0	0	0
(自由入力)	♂	0	0	0	0
(自由入力)	♀	0	0	0	0
(自由入力)	計	0	0	0	0
合計		28	39	45	112

集計表	2017
ニイニイゼミ	1
ミンミンゼミ	27
アブラゼミ	68
ツクツクボウシ	16
ヒグラシ	0
クマゼミ	0
(自由入力)	0
合計	112



コメント:(改行:ALT+ENTER)

玉川上水緑道の幸橋～浅間橋を調査した。上水内は桟など届く範囲とした。道路整備と玉川上水整備活用計画が10年未続き土壌は繰り返し掘られ埋め戻される。大木伐採などの改変が続いている。セミも抜け殻が少なくなっている。ヒグラシの声が少ないというメンバーの声もあり継続した調査に参加希望する。8.14は夜からの雨で、朝は小雨、調査中は曇り。羽化が遅いアブラゼミ多くみられた。

## セミの抜け殻調査報告書2018

■部分を入力 ■ニイニイゼミのみ♀雄別は不要(任意で入力できます)

■プルダウンから選択

■部分は自動入力(計算)されますので入力しないでください。

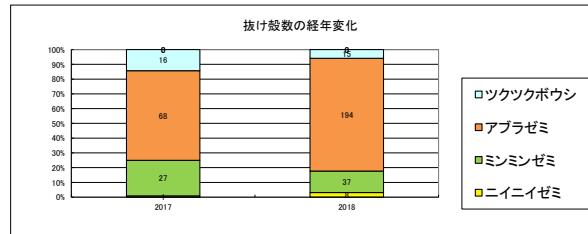
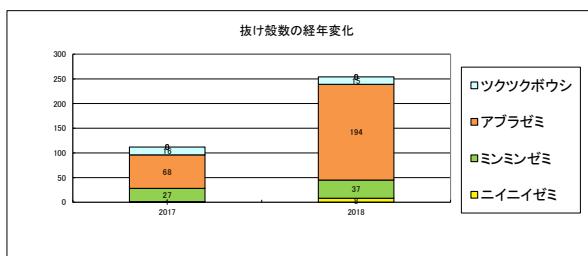
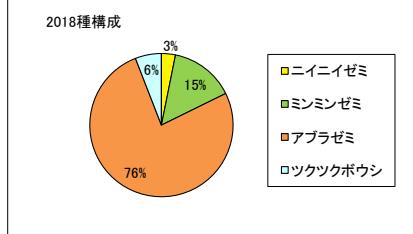
列や行は削除はしないでください。

年度	2018
都道府県名	東京都
調査地名	杉並区久我山
サイト名	玉川上水歴史環境保全地域玉川上水緑道
周辺の環境	平地
調査場所の様子	自然公園・保存緑地
調査場所の地面	その他( )
主担当者	大塚恵子
再検者	

調査地参考情報	
声のみを聞いたセミ	クマゼミ ヒグラシ
調査地の主な樹木	サクラ ヒノキ クスギ ケヤキ コナラ ムクノキ
調査地関連HP	
調査参加者数	大人 7名

種	♂♀	7/30	8/14	8/27	計
ニイニイゼミ	不明	8	0	0	8
ニイニイゼミ	♂	0	0	0	0
ニイニイゼミ	♀	0	0	0	0
ニイニイゼミ	計	8	0	0	8
ミンミンゼミ	不明	0	0	0	0
ミンミンゼミ	♂	23	0	1	24
ミンミンゼミ	♀	11	1	1	13
ミンミンゼミ	計	34	1	2	37
アブラゼミ	不明	0	0	0	0
アブラゼミ	♂	91	16	1	108
アブラゼミ	♀	51	30	5	86
アブラゼミ	計	142	46	6	194
ツクツクボウシ	不明	0	0	0	0
ツクツクボウシ	♂	2	3	5	10
ツクツクボウシ	♀	1	0	4	5
ツクツクボウシ	計	3	3	9	15
ヒグラシ	不明	0	0	0	0
ヒグラシ	♂	0	0	0	0
ヒグラシ	♀	0	0	0	0
ヒグラシ	計	0	0	0	0
クマゼミ	不明	0	0	0	0
クマゼミ	♂	0	0	0	0
クマゼミ	♀	0	0	0	0
クマゼミ	計	0	0	0	0
(自由入力)	不明	0	0	0	0
(自由入力)	♂	0	0	0	0
(自由入力)	♀	0	0	0	0
(自由入力)	計	0	0	0	0
合計		187	50	17	254

集計表	2017	2018
ニイニイゼミ	1	8
ミンミンゼミ	27	37
アブラゼミ	68	194
ツクツクボウシ	16	15
ヒグラシ	0	0
クマゼミ	0	0
(自由入力)	0	0
合計	112	254



コメント:(改行:ALT+ENTER)  
道路整備で緑道を土系舗装にする等の土壌改良の影響がある。ヒグラシの声が少なくなったとの声が上がり、セミ調査は昨年から始めた。今年は、全体の総数が2倍強に増えた。特にアブラゼミが3倍近く増えている。ミンミンゼミは10匹減、ニイニイゼミ7匹増、ツクツクボウシは同数であった。クマゼミ、ヒグラシの声は聞かれたが、抜け殻は見つからなかった。気温は高く、暑さでセミの出も早く、第1回目セミ調査から前年の総数を上回った。夏の初め(7月)に多く、8月に入ってきたからは増えなかつた。豪雨や草刈りで少ない時もあった。緑道に新しく植栽した草木が育ち、昨年は見られなかった抜け殻が10匹程見られた。今後の変化を見続けてたい。

## セミの抜け殻調査報告書2019

■部分を入力 ■ニイニイゼミの♂♀鑑別は不要（任意で入力できます） ■部分は自動入力（計算）されますので入力しないでください。

■部分を入力 ■ブルダウムから選択

■部分は自動入力（計算）されますので入力しないでください。

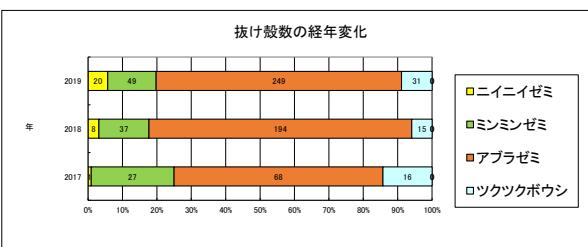
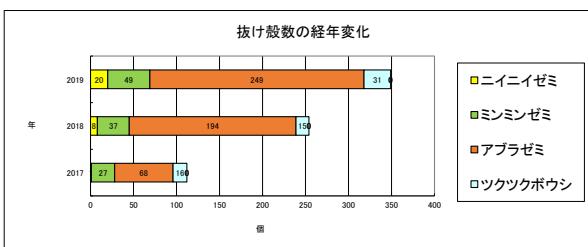
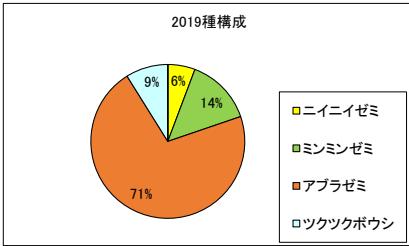
列や行は削除はしないでください。

年度	2019
都道府県名	東京都
調査地名	杉並区久我山
サイト名	玉川上水歴史環境保全地域玉川上水緑道
周辺の環境	平地
調査場所の様子	自然公園・保存緑地
調査場所の地面	その他( )
主担当者	大塚恵子
再検者	

調査地参考情報	
声のみを聞いたセミ	ヒグラシ
調査地の主な樹木	サクラ ヒノキ クスギ ケヤキ コナラ ムクノキ
調査地関連HP	
調査参加者数	大人 6名

種	♂♀	7/23	8/6	8/20	計
ニイニイゼミ	不明	3	15	2	20
ニイニイゼミ	♂	0	0	0	0
ニイニイゼミ	♀	0	0	0	0
ニイニイゼミ	計	3	15	2	20
ミンミンゼミ	不明	0	0	0	0
ミンミンゼミ	♂	0	25	1	26
ミンミンゼミ	♀	0	17	8	23
ミンミンゼミ	計	0	42	7	49
アブラゼミ	不明	0	0	0	0
アブラゼミ	♂	2	91	47	140
アブラゼミ	♀	1	48	60	109
アブラゼミ	計	3	139	107	249
ツクツクボウシ	不明	0	0	0	0
ツクツクボウシ	♂	0	6	16	22
ツクツクボウシ	♀	0	1	8	9
ツクツクボウシ	計	0	7	24	31
ヒグラシ	不明	0	0	0	0
ヒグラシ	♂	0	0	0	0
ヒグラシ	♀	0	0	0	0
ヒグラシ	計	0	0	0	0
クマゼミ	不明	0	0	0	0
クマゼミ	♂	0	0	0	0
クマゼミ	♀	0	0	0	0
クマゼミ	計	0	0	0	0
(自由入力)	不明	0	0	1	1
(自由入力)	♂	0	0	0	0
(自由入力)	♀	0	0	1	1
(自由入力)	計	0	0	2	2
合計		6	203	142	351

集計表	2017	2018	2019
ニイニイゼミ	1	8	20
ミンミンゼミ	27	37	49
アブラゼミ	68	194	249
ツクツクボウシ	16	15	31
ヒグラシ	0	0	0
クマゼミ	0	0	0
(自由入力)	0	0	2
合計	112	254	351



コメント:(改行:ALT+ENTER)

## セミの抜け殻調査報告書2020

■部分を入力

■ニイニイゼミの♂♀鑑別は不要（任意で入力できます）

■プルダウンから選択

■部分は自動入力（計算）されますので入力しないでください。

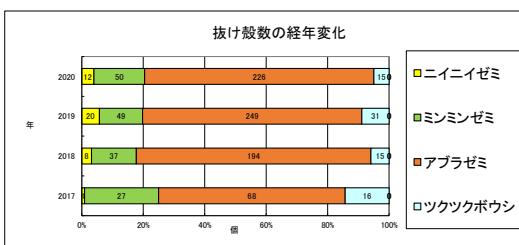
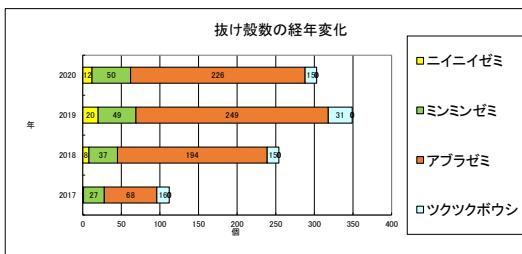
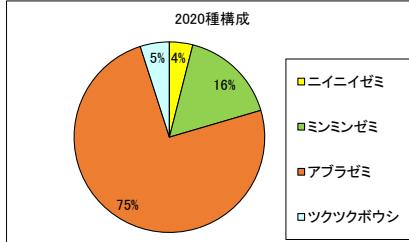
列や行は削除はしないでください。

年度	2020
都道府県名	東京都
調査地名	杉並区久我山
サイト名	玉川上水歴史環境保全地域玉川上水緑道
周辺の環境	平地
調査場所の様子	自然公園・保存緑地
調査場所の地面	その他( )
主担当者	大塚恵子
再検者	

調査地参考情報	
声のみを聞いたセミ	ヒグラシ クマゼミ
調査地の主な樹木	サクラ ヒノキ クスギ ケヤキ コナラ ムクノキ
調査地関連HP	
調査参加者数	大人 8名

種	♂♀	7/27	8/10	8/24	計
ニイニイゼミ	不明	10	1	1	12
ニイニイゼミ	♂	0	0	0	0
ニイニイゼミ	♀	0	0	0	0
ニイニイゼミ	計	10	1	1	12
ミンミンゼミ	不明	0	0	0	0
ミンミンゼミ	♂	6	13	6	25
ミンミンゼミ	♀	3	10	12	25
ミンミンゼミ	計	9	23	18	50
アブラゼミ	不明	0	0	0	0
アブラゼミ	♂	32	70	28	130
アブラゼミ	♀	3	46	47	96
アブラゼミ	計	35	116	75	226
ツクツクボウシ	不明	0	0	0	0
ツクツクボウシ	♂	0	1	9	10
ツクツクボウシ	♀	0	0	5	5
ツクツクボウシ	計	0	1	14	15
ヒグラシ	不明	0	0	0	0
ヒグラシ	♂	0	0	0	0
ヒグラシ	♀	0	0	0	0
ヒグラシ	計	0	0	0	0
クマゼミ	不明	0	0	0	0
クマゼミ	♂	0	0	0	0
クマゼミ	♀	0	0	0	0
クマゼミ	計	0	0	0	0
(自由入力)	不明	0	0	0	0
(自由入力)	♂	0	0	0	0
(自由入力)	♀	0	0	0	0
(自由入力)	計	0	0	0	0
合計		54	141	108	303

種	2017	2018	2019	2020
ニイニイゼミ	1	8	20	12
ミンミンゼミ	27	37	49	50
アブラゼミ	68	194	249	226
ツクツクボウシ	16	15	31	15
ヒグラシ	0	0	0	0
クマゼミ	0	0	0	0
(自由入力)	0	0	0	0
合計	112	254	351	303



コメント : (改行 : ALT+ENTER)

長梅雨の後の猛暑は昨年と同様だが、今年の第1回目調査時は気温が高く昨年の第1回目調査よりは総数が多かった。白いカビのようなものがつき元気のない個体が何匹かいた。1回目の調査終了直後に強めの草刈りが影響して、第2、3回目の調査は低調だった。丈の低い草など羽化の場所に苦労している様子がうかがえた。ツクツクボウシが昨年の半分に減少、ニイニイゼミが8匹減、アブラゼミが26匹減、ミンミンゼミが1匹増、全体の合計は昨年より48匹減少した。一昨年の合計よりは多かった。緑道に植栽したクヌギやコナラやコブシなどの樹木の枝に抜け殻が見られた。ツクツクボウシとニイニイゼミの比率の減少が気になる。ヒグラシは声と生体を確認したが抜け殻は確認できなかった。クマゼミは声のみを確認した。

## セミの抜け殻調査報告書2021

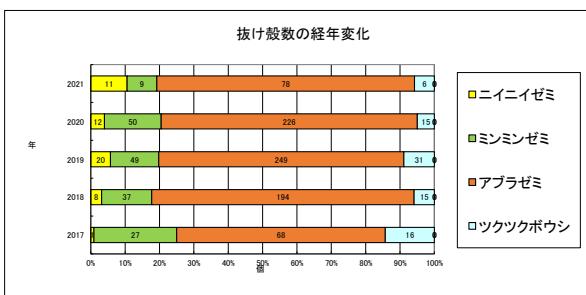
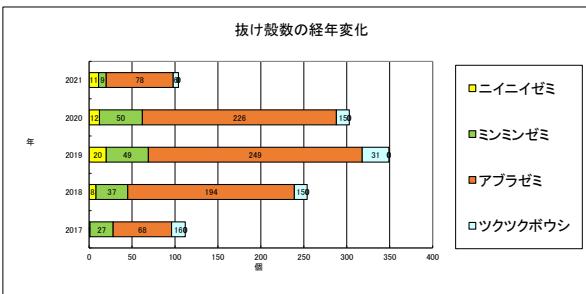
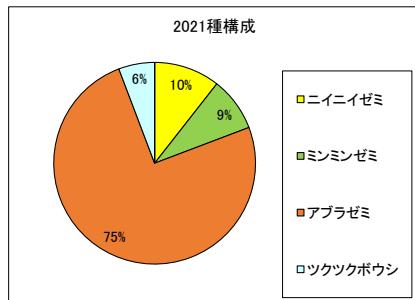
■部分を入力 ■ニイニイゼミの♂♀鑑別は不要（任意で入力できます）

■ブルタウンから選択

別や行は削除はしないでください。
年度
都道府県名
調査地名
サイト名
周辺の環境
調査場所の様子
調査場所の地面
主担当者
再検者

調査地参考情報	
声のみ聞いたセミ	ヒグラン クマゼミ
調査地の主な樹木	サクラ ヒノキ クヌギ ケヤキ コナラ ムクノキ
調査地閑連HP	
調査参加者数	大人 5名

種	♂♀	7/26	8/9	8/23	計
ニイニイゼミ	不明	11	0	0	11
ニイニイゼミ	♂	0	0	0	0
ニイニイゼミ	♀	0	0	0	0
ニイニイゼミ	計	11	0	0	11
ミンミンゼミ	不明	0	0	0	0
ミンミンゼミ	♂	4	0	0	4
ミンミンゼミ	♀	2	3	0	5
ミンミンゼミ	計	6	3	0	9
アブラゼミ	不明	0	0	0	0
アブラゼミ	♂	25	14	4	43
アブラゼミ	♀	7	21	7	35
アブラゼミ	計	32	35	11	78
ツクツクボウシ	不明	0	0	0	0
ツクツクボウシ	♂	0	3	1	4
ツクツクボウシ	♀	0	0	2	2
ツクツクボウシ	計	0	3	3	6
ヒグラン	不明	0	0	0	0
ヒグラン	♂	0	0	0	0
ヒグラン	♀	0	0	0	0
ヒグラン	計	0	0	0	0
クマゼミ	不明	0	0	0	0
クマゼミ	♂	0	0	0	0
クマゼミ	♀	0	0	0	0
クマゼミ	計	0	0	0	0
(自由入力)	不明	0	0	0	0
(自由入力)	♂	0	0	0	0
(自由入力)	♀	0	0	0	0
(自由入力)	計	0	0	0	0
合計		49	41	14	104



### 集計表

	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
ニイニイゼミ	0	0	0	0	0	0	0	0	1	8	20	12	11
ミンミンゼミ	0	0	0	0	0	0	0	0	27	37	49	50	9
アブラゼミ	0	0	0	0	0	0	0	0	68	194	249	226	78
ツクツクボウシ	0	0	0	0	0	0	0	0	16	15	31	15	6
ヒグラン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
クマゼミ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(自由入力)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	0	0	0	0	0	112	254	349	303	104

コメント : (改行: ALT+ENTER)今年、関東で梅雨入りが平年に比べ7日遅く、梅雨明けは3日早かった。梅雨明けは、昨年は長梅雨だったが、今年はそれより16日早く、セミの出現も早かった。第一回調査は5匹減少、第二回調査は、台風一過の直後だったので抜け殻が落ちて、昨年の第二回調査に比べ100匹減少した。第三回調査は94匹減少、全体合計数は199匹減少した。今までの5年間の調査で、全体合計数は過去最低を記録した。個別にみるとニイニイゼミ1匹減少、ミンミンゼミ41匹減少、アブラゼミ148匹減少、ツクツクボウシが9匹減少した。ヒグランは声と生体を確認したが抜け殻は確認できなかった。クマゼミは声のみを確認した。昨年までは、緑道の樹木も育ち、合計数が増えてきたが、まだ道路工事の影響から回復安定はしていない。他の減少原因は、温暖化、人による持ち去り、カラスによる捕食、長期的な増減も考えられ継続し影響をみたい。玉川上水は狭い場所なので影響が顕著に現れやすく、セミにとっても厳しい環境は続いている。しかし、関係者の努力で、生き物のために草刈り時期の工夫などの改善もみられている。

## セミの抜け殻調査報告書2022

■部分を入力 ■ニイニイゼミのみ♀鑑別は不要（任意で入力できます）

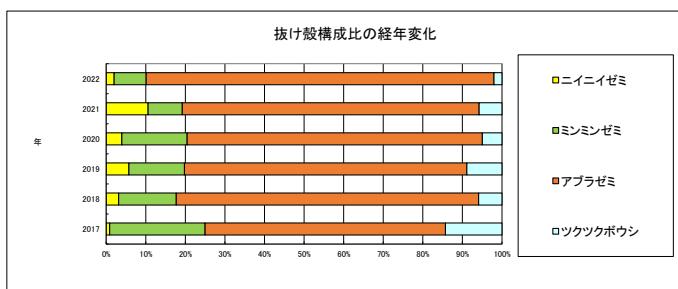
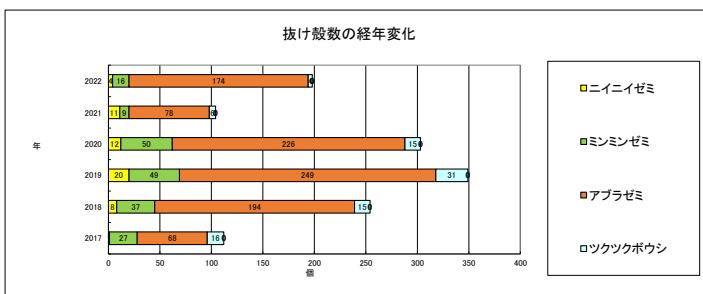
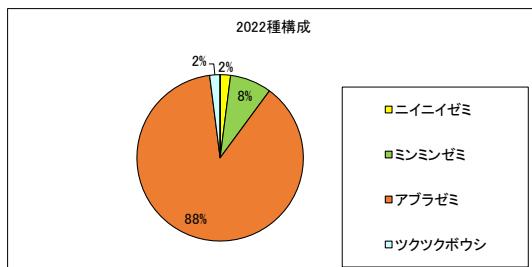
■プルダウンから選択

列や行は削除はしないでください。

年度	2022
都道府県名	東京都
調査地名	杉並区久我山
サイト名	玉川上水ネット歴史環境保全地域
周辺の環境	平地
調査場所の様子	自然公園・保存緑地
調査場所の地面	その他（ ）
主担当者	大塚恵子
再検者	

調査地参考情報	
声のみを聞いたセミ	ヒグラシ、クマゼミ
調査地の主な樹木	サクラ ヒノキ クヌギ ケヤキ コナラ ムクノキ
調査地関連HP	
調査参加者数	大人 4名

種	♂	♀	7/25	8/8	8/22	計
ニイニイゼミ	不明	2	2	0	0	4
ニイニイゼミ	♂	0	0	0	0	0
ニイニイゼミ	♀	0	0	0	0	0
ニイニイゼミ	計	2	2	0	0	4
ミンミンゼミ	不明	0	0	0	0	0
ミンミンゼミ	♂	2	2	1	0	5
ミンミンゼミ	♀	3	6	2	11	21
ミンミンゼミ	計	5	8	3	16	36
アブラゼミ	不明	0	0	0	0	0
アブラゼミ	♂	42	45	16	103	206
アブラゼミ	♀	6	48	17	71	134
アブラゼミ	計	48	93	33	174	308
ツクツクボウシ	不明	0	0	0	0	0
ツクツクボウシ	♂	0	2	1	3	4
ツクツクボウシ	♀	0	0	0	0	0
ツクツクボウシ	計	0	2	2	4	8
ヒグラシ	不明	0	0	0	0	0
ヒグラシ	♂	0	0	0	0	0
ヒグラシ	♀	0	0	0	0	0
ヒグラシ	計	0	0	0	0	0
クマゼミ	不明	0	0	0	0	0
クマゼミ	♂	0	0	0	0	0
クマゼミ	♀	0	0	0	0	0
クマゼミ	計	0	0	0	0	0
(自由入力)	不明	0	0	0	0	0
(自由入力)	♂	0	0	0	0	0
(自由入力)	♀	0	0	0	0	0
(自由入力)	計	0	0	0	0	0
合計		55	105	38	198	



集計表	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
ニイニイゼミ	0	0	0	0	0	0	0	0	1	8	20	12	11	4
ミンミンゼミ	0	0	0	0	0	0	0	0	27	37	49	50	9	16
アブラゼミ	0	0	0	0	0	0	0	0	68	194	249	226	78	174
ツクツクボウシ	0	0	0	0	0	0	0	0	16	15	31	15	6	4
ヒグラシ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
クマゼミ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(自由入力)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	0	0	0	0	0	112	254	349	303	104	198

コメント：今年、関東の梅雨明けは例年に比べて22日早かった。梅雨明け後は高い気温が続きセミの声があまり聞かれない時期が続いた。梅雨の戻りもあり気候が変動しセミには厳しい出足となった。第1回調査(7月25日)時は気温31°Cの中を行った。昨年の合計数は、過去最低の合計数104匹だったが、今年は94匹増えて198匹であった。個別にみるとアブラゼミ96匹増、ミンミンゼミ7匹増、ニイニイゼミ7匹減少、ツクツクボウシ2匹減少であった。とくにアブラゼミの割合が多くなった。ニイニイゼミ、ツクツクボウシの割合は減っている。第2回調査(8月8日)時の合計数が集中して高かった。昨年、伐採のなかった牟礼橋から兵庫橋のコブシやサクラの場所に集中して抜け殻が見られた。第3回調査(8月22日)時は、第2回調査(8月8日)時に集中して羽化した場所には抜け殻は見られなかった。抜け殻が見られた時期や場所に集中が見られることや、増減に偏りがあった。クマゼミとヒグラシの抜け殻は確認出来なかったが声のみ確認した。

## セミの抜け殻調査報告書2023

■部分を入力 ■ニイニイゼミの♂♀鑑別は不要（任意で入力できます）

■ブルダウンから選択

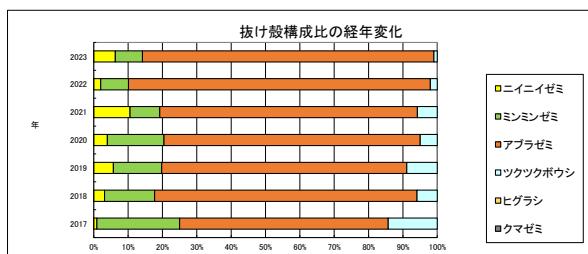
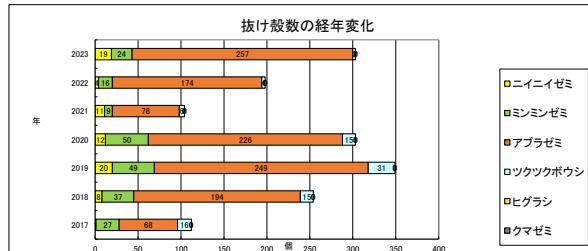
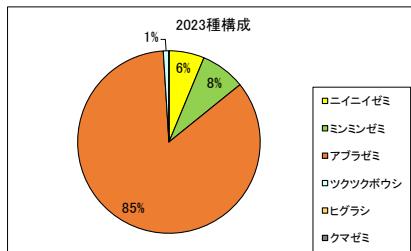
■部分は自動入力（計算）されますので入力しないでください。

別や行は削除はしないでください。

年度	2023
都道府県名	東京都
調査地名	杉並区久我山
サイト名	玉川上水歴史環境保全地域
周辺の環境	平地
調査場所の様子	自然公園・保存緑地
調査場所の地面	その他（ ）
主担当者	大塚恵子
再検者	

調査地参考情報	
声のみ聞いたセミ	クマゼミ、ヒグラシ
調査地の主な樹木	サクラ ヒノキ クスギ ケヤキ コナラ ムクノキ
調査地関連HP	
調査参加者数	大人 5名

種	♂♀	7/24	8/7	8/21	計
ニイニイゼミ	不明	18	1	0	19
ニイニイゼミ	♂	0	0	0	0
ニイニイゼミ	♀	0	0	0	0
ニイニイゼミ	計	18	1	0	19
ミンミンゼミ	不明	0	0	0	0
ミンミンゼミ	♂	3	4	0	7
ミンミンゼミ	♀	5	9	3	17
ミンミンゼミ	計	8	13	3	24
アブラゼミ	不明	0	0	0	0
アブラゼミ	♂	88	48	10	146
アブラゼミ	♀	20	67	24	111
アブラゼミ	計	108	115	34	257
ツクツクボウシ	不明	0	0	1	1
ツクツクボウシ	♂	0	0	2	2
ツクツクボウシ	♀	0	0	0	0
ツクツクボウシ	計	0	0	3	3
ヒグラシ	不明	0	0	0	0
ヒグラシ	♂	0	0	0	0
ヒグラシ	♀	0	0	0	0
ヒグラシ	計	0	0	0	0
クマゼミ	不明	0	0	0	0
クマゼミ	♂	0	0	0	0
クマゼミ	♀	0	0	0	0
クマゼミ	計	0	0	0	0
(自由入力)	不明	0	0	0	0
(自由入力)	♂	0	0	0	0
(自由入力)	♀	0	0	0	0
(自由入力)	計	0	0	0	0
合計		134	129	40	303



### 集計表

	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
ニイニイゼミ	1	8	20	12	11	4	19
ミンミンゼミ	27	37	49	50	9	16	24
アブラゼミ	68	194	249	226	78	174	257
ツクツクボウシ	16	15	31	15	6	4	3
ヒグラシ	0	0	0	0	0	0	0
クマゼミ	0	0	0	0	0	0	0
(自由入力)	0	0	0	0	0	0	0
合計	112	254	349	303	104	198	303

コメント : (改行: ALT+ENTER)今年、東京は空ぬ雨で、降水量は例年の半分にも満たなかった。局地的に大雨があり、例年ない量の日が続いている。第1回調査時(7月24日)は気温32°Cの中行った。一昨年の合計数は、過去最低の合計数104匹だったが、今年は1回目に134匹を確認し早い出足となった。第3回調査時(8月21日)は40匹と少なかった。今年は昨年より105匹増ええて303匹で2020年と同数であった。個別にみるとアブラゼミ83匹増、ミンミンゼミ8匹増、ニイニイゼミ15匹増、ツクツクボウシ1匹減少であった。アブラゼミの割合は多くなり、ツクツクボウシの割合は減っている。総数の増減は気候変動や開発（伐採）も影響する。2020年頃から植栽のコブシの樹が育ちアブラゼミの抜け殻が集中し確認されている。ニイニイゼミやツクツクボウシの抜け殻が見られる95区は、樹木が多様で豊かである。抜け殻の数が少なく、ニイニイゼミやツクツクボウシの羽化が見られない94区はサクラが多くの多様な樹木が少ない。クマゼミとヒグラシの抜け殻は確認出来なかったが声のみ確認した。第2回調査(8月1日)は急な通り雨が開始時に30分ほどあり、抜け殻を調べるとカネタタキ♂幼虫、ハエトリグモ幼体、カメムシ幼虫とモリチャバネゴキブリの若齢幼虫が隠れていた。(注) 95区浅間橋～岩崎橋、94区岩崎橋～兵庫橋、93区兵庫橋～牟礼橋

## セミの抜け殻調査報告書2024

■部分を入力 ■ニイニイゼミのみ♀鑑別は不要（任意で入力できます）

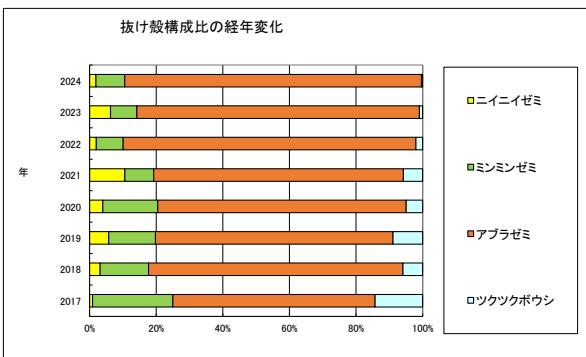
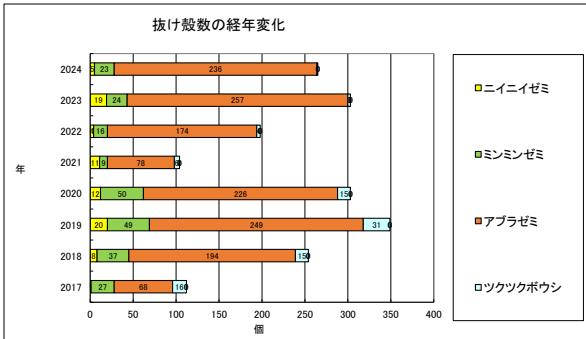
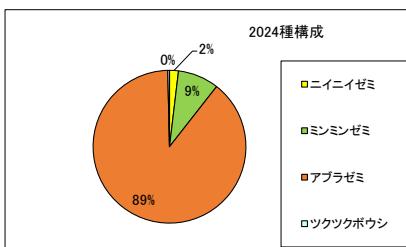
■ブルダウンから選択

別や行は削除はしないでください。

年度	2024
都道府県名	東京都
調査地名	杉並区久我山
サイト名	玉川上水歴史環境保全地域
周辺の環境	平地
調査場所の様子	自然公園・保存緑地
調査場所の地面	その他( )
主担当者	大塚恵子
直接者	

調査地参考情報			
声のみを聞いたセミ	クマゼミ ヒグラシ		
調査地の主な樹木	サクラ ヒノキ クヌギ ケヤキ コナラ ムクノキ		
調査地関連HP			
調査参加者数	大人5名	中学生	小学生
		幼児	

種	♂♀	7/22	8/5	8/19	計
ニイニイゼミ	不明	4	1	0	5
ニイニイゼミ	♂	0	0	0	0
ニイニイゼミ	♀	0	0	0	0
ニイニイゼミ	計	4	1	0	5
ミンミンゼミ	不明	0	0	0	0
ミンミンゼミ	♂	6	9	3	18
ミンミンゼミ	♀	1	2	2	5
ミンミンゼミ	計	7	11	5	23
アブラゼミ	不明	0	0	0	0
アブラゼミ	♂	31	94	11	136
アブラゼミ	♀	3	72	25	100
アブラゼミ	計	34	166	36	236
ツクツクボウシ	不明	0	0	0	0
ツクツクボウシ	♂	0	0	1	1
ツクツクボウシ	♀	0	0	0	0
ツクツクボウシ	計	0	0	1	1
ヒグラシ	不明	0	0	0	0
ヒグラシ	♂	0	0	0	0
ヒグラシ	♀	0	0	0	0
ヒグラシ	計	0	0	0	0
クマゼミ	不明	0	0	0	0
クマゼミ	♂	0	0	0	0
クマゼミ	♀	0	0	0	0
クマゼミ	計	0	0	0	0
(自由入力)	不明	0	0	0	0
(自由入力)	♂	0	0	0	0
(自由入力)	♀	0	0	0	0
(自由入力)	計	0	0	0	0
	合計	45	178	42	265



集計表	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
ニイニイゼミ	0	0	0	0	0	0	0	0	1	8	20	12	11	4	19	5
ミンミンゼミ	0	0	0	0	0	0	0	0	27	37	49	50	9	16	24	23
アブラゼミ	0	0	0	0	0	0	0	0	68	194	249	226	78	174	257	236
ツクツクボウシ	0	0	0	0	0	0	0	0	16	15	31	15	6	4	3	1
ヒグラシ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
クマゼミ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(自由入力)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	0	0	0	0	0	112	254	349	303	104	198	303	265

コメント : (改行: ALT+ENTER) 今年、関東は梅雨入りは遅く、梅雨明けは平年並みだった。梅雨明け後は、安定した天気が続いているが梅雨が境地の間にあり、気温が高く、昨年に続いた猛暑であった。第1回調査時(7月22日)は9時開始の時点で気温30°Cだった。午前中の調査終了時には35°Cとなり、45匹と低調な出足であった。連日35°C前後で日中はセミの声が少なく、夜は照明も明るく気温も下がらないので、夜鳴くセミも増えている。夕方に雨があるとしごとぎやすい。2回目調査開始時30°Cであったが厳しい暑さが続いてきたので気温は高く感じなかった。2回目調査で178匹と抜け殻の数は急増した。2回目調査の数は1回目調査と大差なかった。2回目調査時の8月上旬に抜け殻が集中して確認された。合計数は265匹と昨年より38匹減少した。個別にみるとアブラゼミ21匹減、ミンミンゼミ1匹減、ニイニイゼミ14匹減、ツクツクボウシ1匹減少であった。9割型アブラゼミで占められ、ニイニイゼミ、ツクツクボウシの割合は減っている。絶滅の増加は安定している。玉川上水は狭い緑地で気候変動や開発や外来種などの影響はさぞや大きいと考える。コブシに集中して抜け殻が見られたが今年は集まっていたなかった。抜け殻は少し小さめのようだった。ヒグラシの抜け殻は8月中旬の調査日以外日が久しぶりに確認された(調査日以外での記録は声のみにした) (注) 95区浜間橋～岩崎橋、94区岩崎橋～兵庫橋、93区兵庫橋～牟礼橋

玉川上水でセミが少なかった年は2021年でしたので、少し調べ直しました。  
2022年のコメントに、「昨年、伐採のなかった牟礼橋から兵庫橋のコブシやサクラの場所に集中して抜け殻が見られた。」とあり、2021年に伐採があったことがあります。セミにも伐採が影響していると考えます。  
思い返すと玉川上水全体で整備計画の伐採が続いて、市民の声の高まりもあり、現在、伐採を控えています。  
その後、玉川上水中流部の保全団体が4ヶ所で鳥類調査を行ったりして野鳥に注目が集まつたこともあります。  
現在、杉並の玉川上水は、伐採を控えていますが多くの鳥類や昆虫など多種類にはよさそうですが、花が減少しています。  
セミの数が多く減っていないのは、樹木整備がありませんのも原因のひとつです。コメント欄に書くべきでした。

## セミの抜け殻調査報告書2025

■部分を入力 ■ニイニイゼミのみ♀鑑別は不要（任意で入力できます）

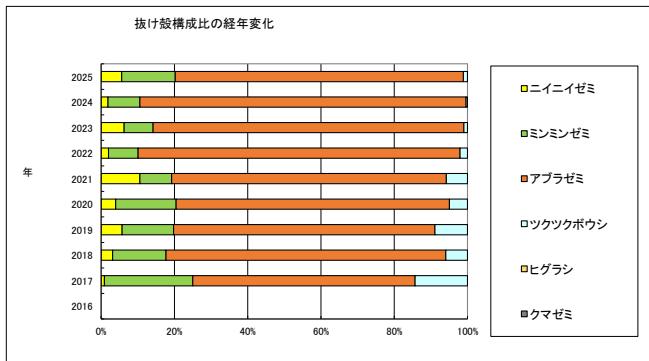
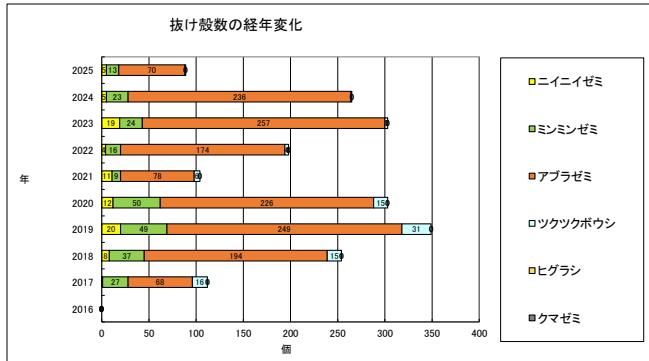
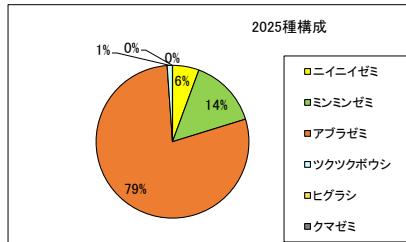
■ブルダウンから選択

別や行は削除はしないでください。

年度	2025
都道府県名	東京都
調査地名	杉並区久我山
サイト名	玉川上水歴史環境保全地域
周辺の環境	平地
調査場所の様子	自然公園・保存緑地
調査場所の地面	その他( )
主担当者	大塚恵子
直接者	

調査地参考情報					
声のみ聞いたセミ	ヒグラシ、クマゼミ				
調査地の主な樹木	サクラ ヒノキ クスギ ケヤキ コナラ ムクノキ				
調査地関連HP					
調査参加者数	大人5名	中学生	小学生	1名	幼児

種	♂♀	7/21	8/4	8/18	計
ニイニイゼミ	不明	4	1	0	5
ニイニイゼミ	♂	0	0	0	0
ニイニイゼミ	♀	0	0	0	0
ニイニイゼミ	計	4	1	0	5
ミンミンゼミ	不明	0	0	0	0
ミンミンゼミ	♂	3	3	0	7
ミンミンゼミ	♀	4	0	2	6
ミンミンゼミ	計	7	3	3	13
アブラゼミ	不明	0	0	0	0
アブラゼミ	♂	5	21	14	40
アブラゼミ	♀	0	19	20	39
アブラゼミ	計	5	31	34	70
ツクツクボウシ	不明	0	0	0	0
ツクツクボウシ	♂	0	0	0	0
ツクツクボウシ	♀	0	0	1	1
ツクツクボウシ	計	0	0	1	1
ヒグラシ	不明	0	0	0	0
ヒグラシ	♂	0	0	0	0
ヒグラシ	♀	0	0	0	0
ヒグラシ	計	0	0	0	0
クマゼミ	不明	0	0	0	0
クマゼミ	♂	0	0	0	0
クマゼミ	♀	0	0	0	0
クマゼミ	計	0	0	0	0
(自由入力)	不明	0	0	0	0
(自由入力)	♂	0	0	0	0
(自由入力)	♀	0	0	0	0
(自由入力)	計	0	0	0	0
合計		16	35	38	89



### 集計表

	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
ニイニイゼミ	0	1	8	20	12	11	4	19	5	5
ミンミンゼミ	0	27	37	49	50	9	16	24	23	13
アブラゼミ	0	68	194	249	226	78	174	257	236	70
ツクツクボウシ	0	16	15	31	15	6	4	3	1	1
ヒグラシ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
クマゼミ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(自由入力)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	112	254	349	303	104	198	303	265	89

コメント : (改行 : ALT+ENTER) 今年、関東では梅雨入りは少し遅く平年並みの梅雨明けだった。西日本では梅雨明けが早く全国的にムラがあった。暑さが厳しく35度を上回る日曜の日が続いた。緑状降水帯の激しい雨も各地で続いた。第1回調査時(7月21日)は9時開始の時点でも気温31℃だった。雨が少なく強い日差しの乾燥した日が続き18匹と低鈴なり出足であった。アブラゼミの幼虫は湿り気が必要でミンミンゼミの幼虫は乾燥に強い。第1回はアブラゼミよりもミンミンゼミの方が出ていた。上水内は2021年以降大きな伐採はない。緑道の草は、第2回の時点まで繁って抜け殻を発見しにくかった。第3回調査時に草刈中のところがあり10匹程度はマイナスになった。繁りすぎてても天敵に襲われるし、乾燥しすぎても減少するので難い。今回はロープ柵のロープにはあまり発見できなかった。第2・3回目調査は9時の時点でも気温34度と猛暑が相変わらず続いた。2回目調査時の3日前の8月1日には待望の雨があった。これを機に数は少なくなったがアブラゼミが出て始めた。声はミンミンゼミとニイニイゼミの声が多く、アブラゼミはまだ本格的に鳴いていなかった。声はニイニイゼミ、アブラゼミ、ツクツクボウシ、ミンミンゼミが聞かれたが声は少なかった。クマゼミ、ヒグラシは声のみ聞かれた。以降、終盤はミンミンゼミとツクツクボウシの声が多くアブラゼミの声が少なかった。ツクツクボウシの抜け殻は1匹しか確認できなかったが、アブラゼミの声がないせいかよく鳴いていて数は出ているように感じた。セミの落ちている死骸もあり確認できなかった。とくにアブラゼミが色が悪く元気がない個体がいた。同じ土の中の生き物でモグラやミミズも例年と比べ確認できなかった。幼虫の時に地中で過ごすアオドウガネやリヨンテナムグリは小さい個体が何匹かいた。土の中で水や栄養を取っているのか心配になった。過去最低数になったのは、気候変動が原因の一つとして考えられる。長年、道路開発で掘り返し分断されたの面積が狭くなったりが植栽してきた。今年で2019年の道路開通から6年目になり、その時のセミが羽化する頃だ。総数にはムラがあり安定していないのは緑地が狭いために気候変動や開発や管理の影響が極端だと直感的に出てしまうことも考えられる。今後の経過をみていくたい。